

令和2年度 八重山商工高等学校評価(全日制課程)(自己評価・学校関係者評価)

1 学校の教育目標	
I 商業、工業に関する専門的な知識、技術及び技能を習得させ、産業界で活躍する人材を育成する。 II 心身共に健康で、社会を生き抜くための「基礎力」「思考力」「実践力」を持った生徒を育成する。 III 豊かな人間性と創造性の伸張をはかり、主体性・積極性・協調性と柔軟性を持ったグローバル社会で活躍する生徒を育成す	
2 本年度の重点目標	
(1) 主体的に学意欲を持つ生徒の育成 (2) 自他の生き方考え方を尊重できる生徒の育成 (3) 社会をたくましく生き抜く力を持つ生徒の育成 (4) 将来の目標を持ち自己実現を目指す生徒の育成 (5) 生活習慣を正し意欲的に活動する生徒の育成 (6) 郷土の文化に誇りを持ち、	
3 本年度の成果と課題	
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員からは、コロナ禍での学校運営1年間大変でした。お渡し様でした。と労いの言葉があった。 ・コロナに対する生徒のメンタル的な落ち込みや特に3年生の状況について、アンケート調査や相談窓口等を設けるなど生徒達のメンタルケアを行った。 ・コロナで求人数の激減で進路指導の取り組みにおいて、学期調査した島外の希望人数が就職と進学希望者数がかなり減るなど苦労があった。当初予定していたガイダンスや説明会も中止があったが、進路決定率は上昇できた。 ・部活動については、新型コロナウイルス感染症対策で各種競技が中止・延期となるなかで生徒たちのモチベーションの維持や練習時間確保、移動中や大会参加から帰島までの新しい生活様式と感染予防に取り組むこととなり、生徒・関係職員の取り組みは素晴らしく、この経験は今後の取組みに参考となると推察できる。 ・生徒指導としては、近年改善の傾向にあったが、出席率の向上など全般的に勤怠状況の改善された。また、厳重注意及び懲戒指導の件数も年々、減少傾向にあり引き続き生徒指導の体制と取組みの強化に取り組む。 	

評価基準 A:とてもそう思う B:そう思う C:そう思わない D:とても思わない

評価項目	具体的目標	具体的方策	自己評価	令和元年度の成果・課題	令和2年度への改善点	学校関係者評価
教育目標	教育実践の充実	① 職員は教育目標を意識して教育実践している。	B	教師は教育目標を意識して実践に移す事ができた。保護者への周知の方法は課題が残った。	生徒への説明に関しては始業式や学級開き、LHRでの周知を行う。保護者へはPTA総会や学級懇談会等で周知を行う。	A
	教育目標の周知徹底	② 教育目標は生徒や保護者に知れ渡っている。				
教育計画	実態に即した教育計画	① 生徒の実態に即した教育計画を編成している。	B	学校として目標達成に向けた教育計画を編成し実践している。	各科・各コース、各教科において年度当初に話し合いを持ち、具体的な目標の設定を行う。	A
	生徒の個性伸張	② 生徒個々を伸ばす教育実践をしている。				
学校運営	生徒の学力向上支援	① 個々の生徒を伸ばす学校運営がなされるようにする。	B	毎日の朝学や各教科において学力向上にむけて全職員で取り組む事が出来た。手帳の活用については分析・検証したことで改善した取組を検討していく。	継続的な実践が必要となるので、これまでの成果を無駄にすることなく全員で取り組んでいく。	B
	家庭地域との連携	② 家庭・地域と連携した学校運営を実施する。				
教科指導	家庭学習の習慣化	① 主体的に学ぶ意欲を高め、家庭学習の習慣化が図られている。	B	各教科等、基礎・基本の定着を図り授業が実践されているが、単位保留科目を持った生徒が増加している。	全職員で授業改善に取り組み単位保留科目を持った生徒への対応について検討する。	B
	学力の向上と目標達成	② 生徒の希望進路が実現できるよう、学力の向上を図る。				
特別活動	生徒会活動の充実	① 委員会活動が活発になる指導をする。	B	生徒は学校行事に積極的に取り組みほとんどの生徒が楽しいと評価している。3年生が引退のあと部活生が減少、活性化が必要である。	新入生に向けての体育系・文化系の入部への促進。各委員会の生徒の主体的な活動の支援を図る。	A
	部活動の活性化	② 部活を奨励し、学校生活を充実させるよう指導する。				
生徒指導	健全な生徒の育成	① 善悪の判断ができ、思いやりのある生徒を育成する。	B	身なり指導等、定期的にも実施できた。重大な事故はなかったが、登校時の自転車と車の接触事故があった。勤怠指導の増加、アルバイトに状況把握と継続的な指導が必要。	身なり・勤怠指導に関しては担任・生徒指導部を中心に全職員で継続して取り組む。アルバイト指導は家庭、事業者と連携した指導を検討し実施していく。	B
	交通安全・事故防止	② 交通安全指導を通し、交通事故の防止に努める。				
進路指導	PTA進路学習会の実施	① 就職ガイダンス・PTA進路学習会を実施する。	B	卒業未認定の2名を除く生徒123名が進路決定、県内においても早期で高い進路決定率であった。また、学費免除者を含む私立大学合格者(2名)を出すことができた。	進路決定100%の達成は基より、今後は定着率の向上にも努める。また、大学進学を増やすための手立てを考えていく。	A
	進学・就職指導の充実	② 進路相談や三者面談を通して、生徒の進路支援を行う。				
健康・安全指導	健康意識の向上	① 健康生活を営む態度の涵養を図る。	B	いじめの定義やいじめ防止対策などを記載し、全職員で共通理解が図れた。全生徒が健康診断の所検査を受診した。校内安全点検も定期的に実施できた。	職員の普段からの目配り、気配りにより大きな問題は発生していない。今後も安全・安心な学校づくりに向けてに目配り、気配りを続けていく。	A
	危機管理体制の充実	② 危機管理体制を整備し、各種点検を行う。				
	いじめのない学校づくり	③ いじめの実態把握・未然防止・早期発見に努める。				
環境美化	清掃活動の徹底	① 清掃点検が行われ、ごみの分別収集を徹底する。	B	美化委員会によるゴミの分別活動、清掃強化週間の実施など生徒の主体的な活動を促すことができた。	学校緑化は環境保健部職員が中心になって行っているが、美化委員会を活用し、生徒中心に活動ができるように指導を心がける。	A
	公共物を大切にする態度	② 公共物を大切にすることを育成する。				
家庭地域との連携	ニーズに応えた教育活動	① 保護者・地域の要望を生かした教育活動を行う。	B	今年度は各学校行事毎のHP時の更新を活発に行うことができた。	今後もHP更新を活発に行い、地域や中学校にアピールする。中学生への体験入学や学校説明会の際にはQRコードの配布などHP閲覧してもらう工夫が必要。	B
	保護者との連携と理解	② 家庭との連携による教育活動の充実を図る。				
中途退学対策	中退者をなくす取組	① 全職員が中退対策に取り組む。	B	教育相談係、養護教諭、外部カウンセラー、HR担任が協力・連携して支援・指導を行ったが1人の生徒が退学した。	教育相談係りや養護教諭、外部カウンセラー、HR担任によるきめ細やかな指導および全職員による指導に取り組む。	A
	全員進級及び卒業	② 補習・補充を行い、全員進級・卒業を目指した指導を行う。				